

## 新潟焼山の火山活動解説資料（令和2年7月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。  
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴煙活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・表面現象の状況（図2、図3-①、図4～5）

噴煙活動は低調に経過しています。今期間、視界不良のため山頂部が見えないことが多かったですが、観測できた時間帯で山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図3-②、図6～7）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。今期間、新潟焼山周辺に震源が求まる地震はありませんでした。

火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図1、図3-③④）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

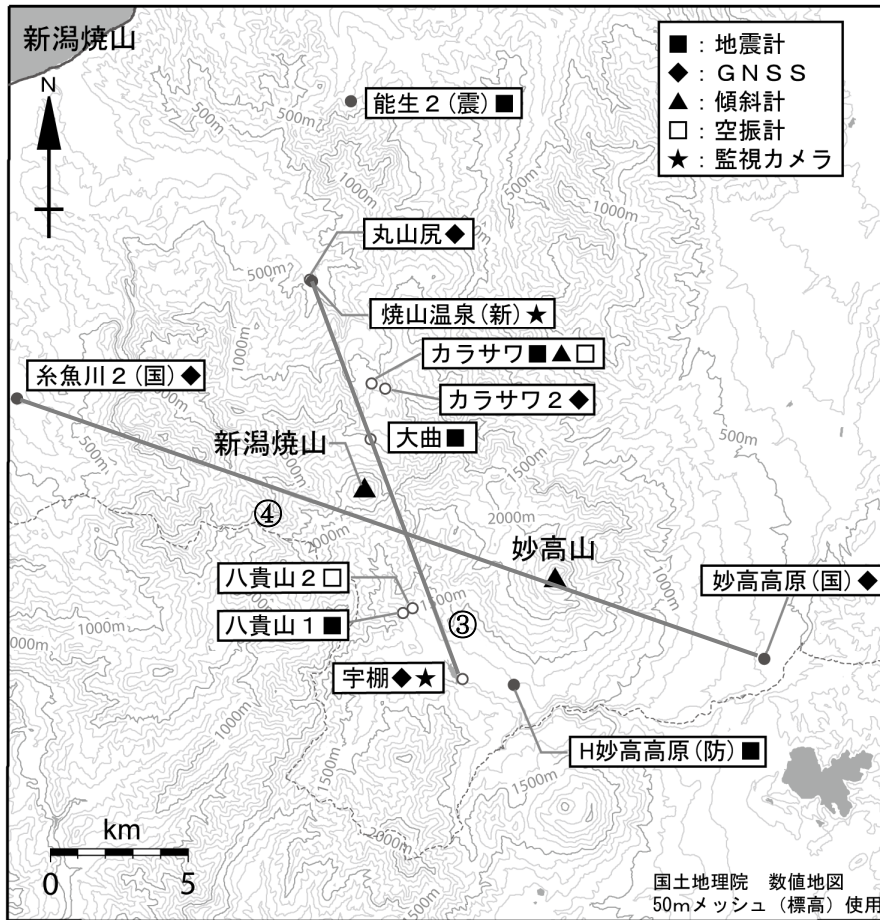
次回の火山活動解説資料（令和2年8月分）は令和2年9月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図

(GNSS 基線③④は図3の③④に対応しています)



図2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況

(左：焼山温泉監視カメラ（7月9日）、右：宇棚監視カメラ（7月22日）による)

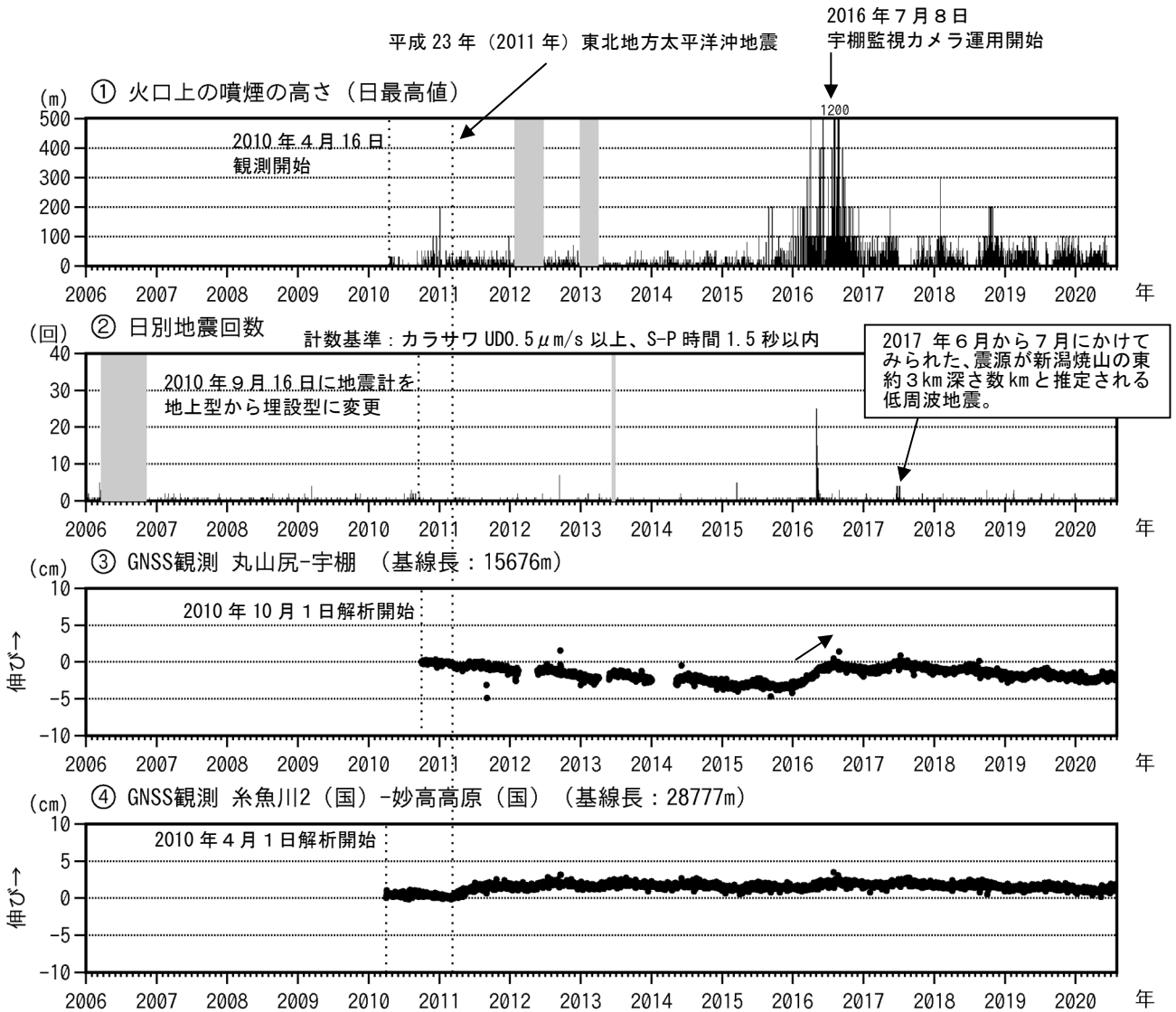


図3 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2020年7月31日）

（国）：国土地理院

①② 灰色部分は機器障害による欠測を示します。

③④ 図1の③④に対応しています。空白部分は欠測を示します。

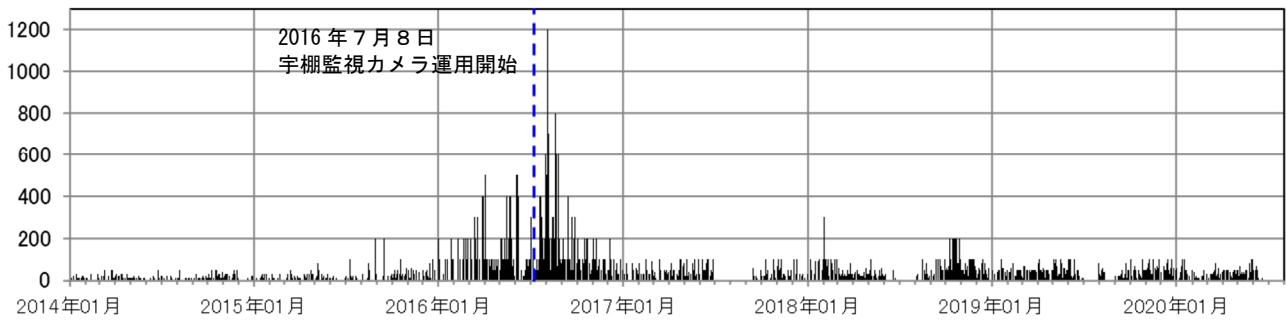
平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

・今期間、視界不良のため山頂が見えないことが多かったですが、観測された時間帯で山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。

※夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。

・③の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられました。

① 新潟焼山 噴煙の高さの推移（日最高値）



② 新潟焼山 噴煙の長さの推移（日最大値）

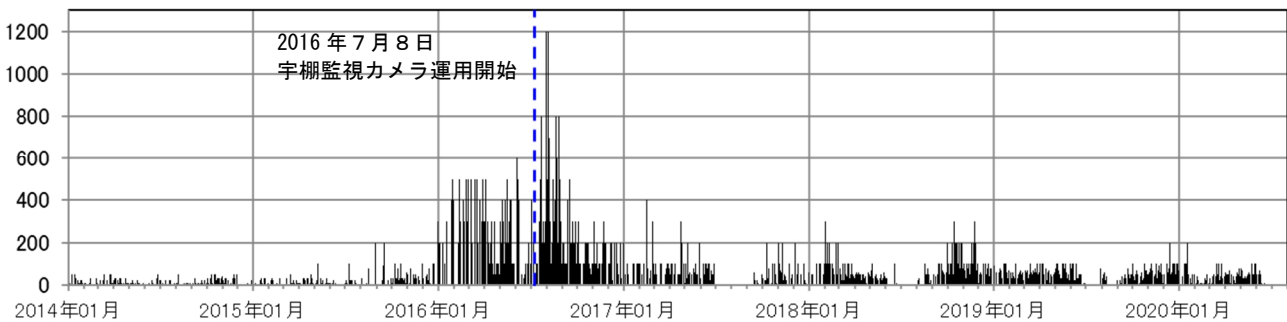


図4 新潟焼山 噴煙の高さと噴煙の長さの推移

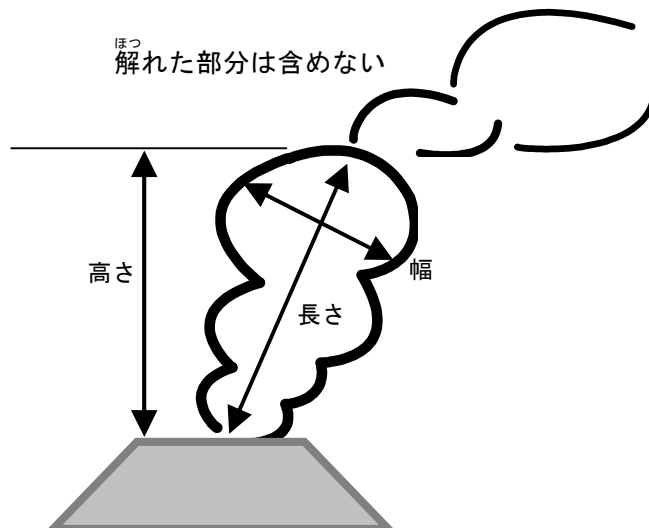
（それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2020年7月31日）

噴煙の高さは強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図5参照）のグラフも示しています。

2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図1を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・今期間、視界不良のため山頂が見えないことが多かったですが、観測された時間帯で山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。

図5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図



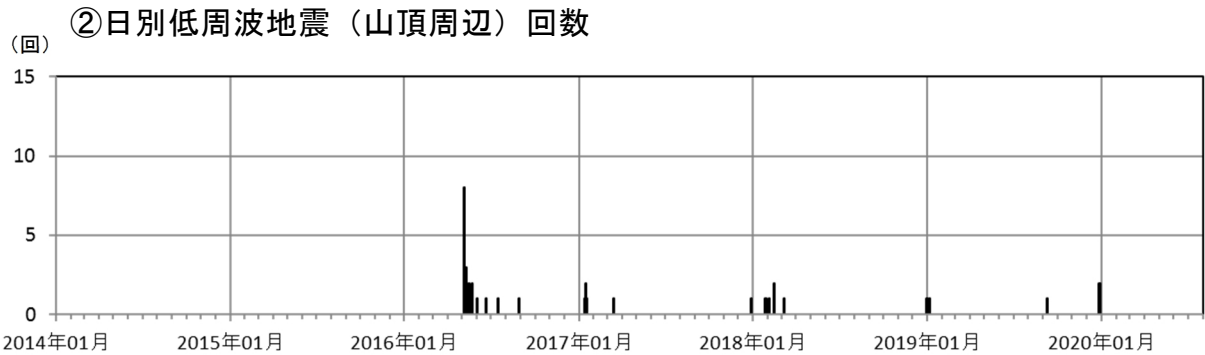
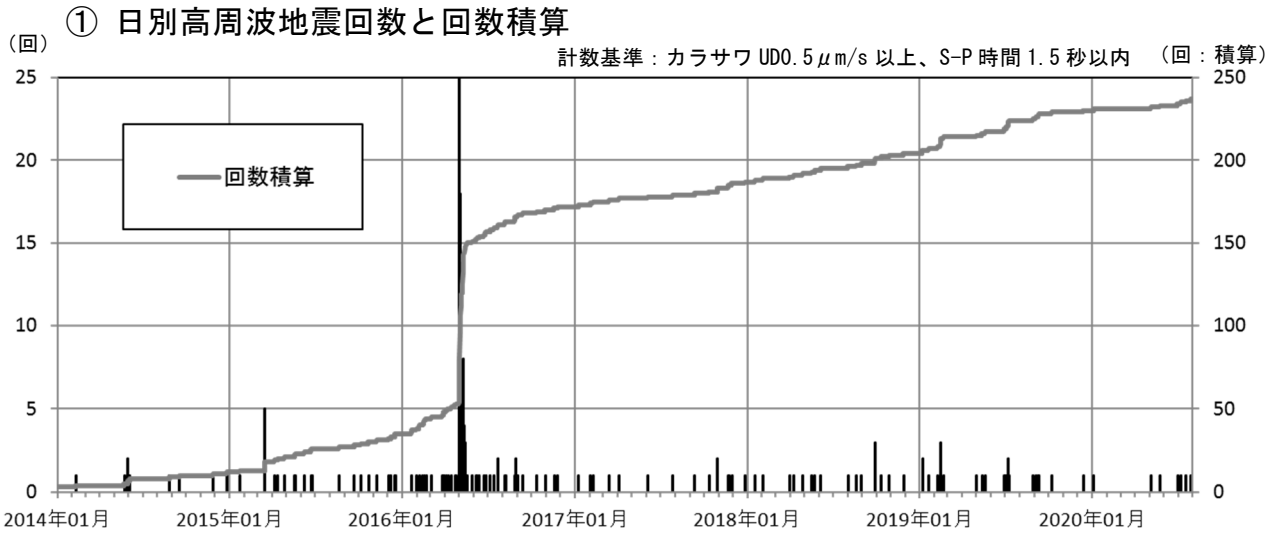


図6 新潟焼山 日別地震回数（2014年1月1日～2020年7月31日）

地震の主な種類（図7参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・2016年5月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月に減少し、それ以降火山性地震は少ない状態で経過しています。
- ・今期間、火山性地震は少ない状態で経過しています。

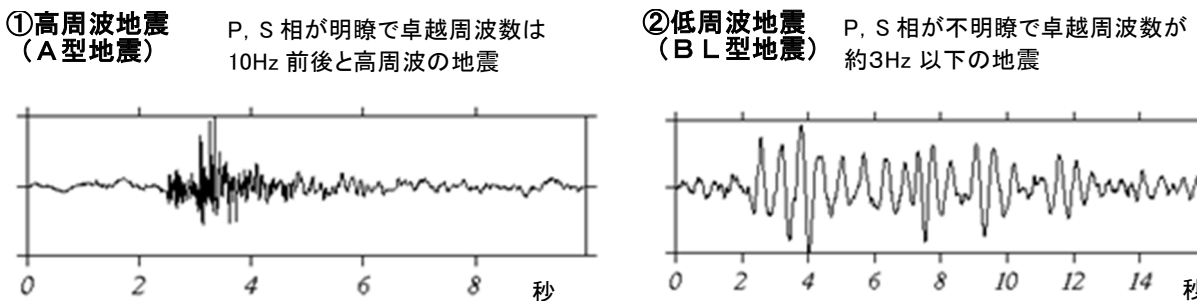


図7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例